

家畜衛生 いずも

H28年度 No.2
2017. 2月



島根県東部農林振興センター出雲家畜衛生部(出雲家畜保健衛生所)

〒699-0822 出雲市神西沖町 918-4 TEL(0853)43-7900 FAX(0853)43-2801

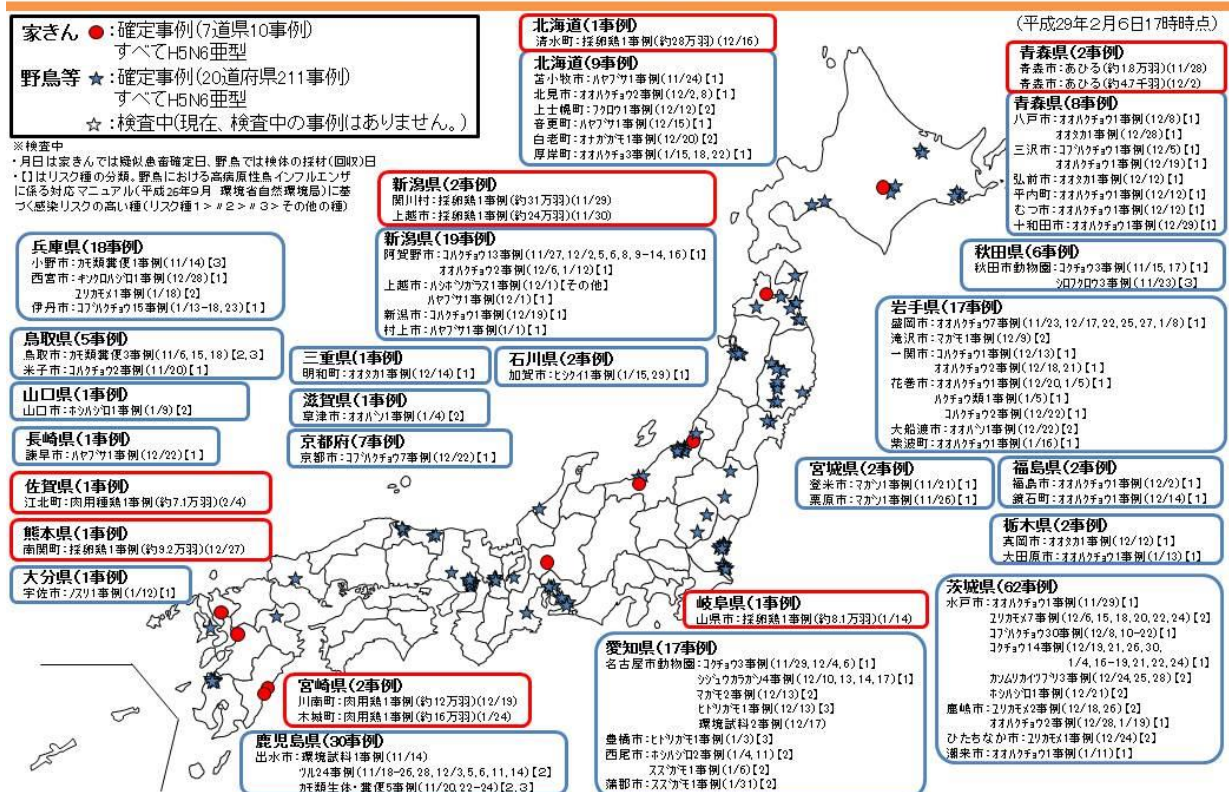
★家畜防疫関連情報

国内で高病原性鳥インフルエンザが発生しています。

平成 28 年 11 月 28 日、青森県の養鶏場において、今年度、国内初となる養鶏農家での「高病原性鳥インフルエンザ」の発生が確認されました。平成 29 年 2 月 6 日時点では、下図に示すとおり、7 道県 10 農場において本病が確認されています。一方、野外（死亡野鳥や糞便等）においては、11 月初旬の秋田県で確認された後、20 道府県 211 例で家きんで検出されたウイルスと同じ型のウイルスが確認されていることから、本病が発生するリスクは、国内の何処の地域でも高い状況にあるといえます。

家きん飼養者の方は、引き続き、野生小動物の鶏舎内への侵入防止対策の点検等、飼養衛生管理基準を遵守し、最大限の警戒態勢の維持にご尽力頂くようお願いいたします。また、関係機関の方々も、この取り組みにご理解頂き、地域一帯で衛生意識を高め、本病の侵入を阻止しましょう！

国内における高病原性鳥インフルエンザの発生・検出状況(平成28年11月以降)



農林水産省ホームページより

異常家きんを発見したら、すぐに家畜保健衛生所へお知らせください！！

★5条検査～平成 29 年度から肉用繁殖牛のヨーネ病法定検査がはじまります

慢性で頑固な下痢を主な症状とする家畜法定伝染病である**ヨーネ病**は、国内で毎年 500 頭から 800 頭の患畜が摘発されており、その**約4割**を肉用牛が占め、**肉用繁殖牛へのヨーネ病の侵入リスクは乳用牛とほぼ同等**と考えられています。

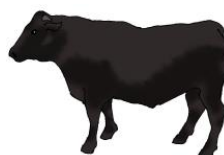
島根県内で飼育する乳用牛は3年に1度の間隔で、家畜伝染病予防法第5条の規定による結核病、ブルセラ病およびヨーネ病の検査を**有料**で従来から行っています。

平成 29 年度から、肉用繁殖牛についても家畜伝染病予防法に基づいたヨーネ病の法定検査（有料：800 円）を開始します。

【平成 29 年度からの検査対象および変更点等】

肉用繁殖牛（新規）

- ・検査対象：繁殖の用に供し、又は供する目的で飼育している肉用雌牛
- ・検査間隔：「**5 年**に1度」
- ・検査対象月齢：「**生後 24 ヶ月齢以上**」
- ・検査疾病：ヨーネ病のみ
- ・方法：採血による抗体検査



乳用牛（変更）

- ・検査対象：搾乳の用に供し、又は供する目的で飼育している雌牛
- ・検査間隔：「**3 年**に1度」から「**5 年**に1度」へ変更
- ・検査対象月齢：「**生後 6 ヶ月**を経過した牛のうち、家保長が必要と認めた牛」から「**生後 24 ヶ月齢以上**」へ変更
- ・検査疾病：結核病、ブルセラ病およびヨーネ病（変更無し）
- ・方法：採血による抗体検査（ブルセラ病、ヨーネ病）、ツベルクリン検査（結核）



【実施地域について】

県内を5地域に区分して5年をかけて一巡し、清浄性の確認を行います。

出雲家畜保健衛生所管内の平成 29 年度の検査対象地域は、**奥出雲町（横田地区）**の予定です。

★和牛能力共進会への取り組み

本年9月7日～11日の5日間、宮城県仙台市で開催される第11回全国和牛能力共進会はテーマに「高めよう生産力、伝えよう和牛力、明日へつなぐ和牛生産」を掲げ、繁殖雌牛については生産効率の向上を目指した繁殖能力の改良への取り組みと、肉牛については、今後の食糧生産・流通・消費を見据え、消費者の方々が求める「美味しい和牛肉」として脂肪の質の客観的評価が行われることになっております。当所管内においても、出雲地区、雲南地区及び奥出雲地区の出品対策協議会で全共への取り組みが行われているところです。

昨年10月25日には、JASしまね島根県中央家畜市場において第5区、繁殖雌牛群の地区代表選抜会が開催され、出品された3地区から奥出雲町の出品牛が県代表に選抜されました。第5区は繁殖雌牛集団の斉一性を図るとともに、改良組合を中心とした集団活動による改良成果の確認と技術向上を目的とした出品区であります。選抜会の審査講評にもあったように出品牛の体側値、栄養度の状況に併せ「体積」「均称」「資質」「品位」も優れ、牛群の斉一性も高いことから奥出雲町の出品牛が選抜されました。

当家畜衛生部では、全共出品牛の対策として農業技術センター、畜産技術センター、各地域普及部と連携し、肥育区については出雲地区で3戸、雲南地区で2戸、奥出雲地区で2戸の農場について毎月の巡回指導を実施し、出品候補牛47頭の定期的採血を行うことで血液の生化学的検査並びにビタミンAの保有状況を把握し技術指導を実施しております。

また、第5区についても地域普及部、家畜診療所と連携し、出品牛への飼料給与指導を行うために血液生化学的検査を定期的に実施しております。

今後、9月の大会に向けて候補牛の選抜や出品対策が本格化する中で、家畜衛生部としても引き続き衛生対策を中心とした技術指導を行っていきたいと考えております。



第5区選抜会の様子



★飼養衛生管理基準巡回

年に一度、直接、皆さんの農場にお邪魔して、「牛房を清潔に保っているか?」「家畜を適切な密度で飼っているか?」などを聞き取りして、お願いしているところですが、今年度、未だ訪問できていないお宅があります。

酪農場や肥育農場および一部の和牛飼養農家さんですが、お邪魔しますのでその節は宜しくお願いします。

今年2月、隣国“韓国”では「口蹄疫」が発生しました。

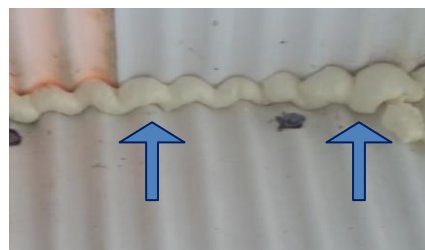
又、「高病原性鳥インフルエンザ」は国内で続発しており、“今そこにある危機”といっても過言ではないでしょう。

遵守事項を守ることは、発生イコール国家の危機に直結するこれら重大感染症の侵入を防ぐだけでなく、カゼ・下痢といった一般疾病防除にも効果があります。

これまでも管内事例には、カゼのウイルスや下痢菌を持った導入牛を隔離し、消毒を徹底し、農場内の蔓延阻止したことはよくあります。

病気を防除して、生産性を上げ、この“危険な季節”を乗り越えましょう。

養鶏農場で小動物侵入阻止を目的とした市販発砲充填剤を用いた優良事例



★県種畜共進会が開催されました

去る平成28年10月22日に天気にも恵まれた中、JAしまね島根県中央家畜市場で平成28年度島根県種畜共進会がJAしまね主催により開催されました。共進会には県内から第1部の肉用種牛48頭、第2部乳用種牛29頭が出品され、出雲家畜衛生部管内からは肉用種牛23頭、乳用種牛15頭が出品されました。審査の結果、第1部の肉用種牛で管内の

佐藤治己さん（奥出雲町）所有の「やどてるふじ号」が、第2部の乳用種牛で同じく管内の



河村保志さん（出雲市）所有の「リバービレッツジヤスパー ミキテー ET号」がグランドチャンピオンに輝きました。なお、第2部の乳用種牛では次席に長廻康治さん（出雲市）、3席に永瀬哲也さん（出雲市）、4席に小池俊彦さん（奥出雲町）所有の牛が入賞され、グランドチャンピオンから4席まで管内の牛という快挙を成し遂げました。

入賞された農家の皆様、おめでとうございます。

肉用種グランドチャンピオン「やどてるふじ号」と佐藤さん

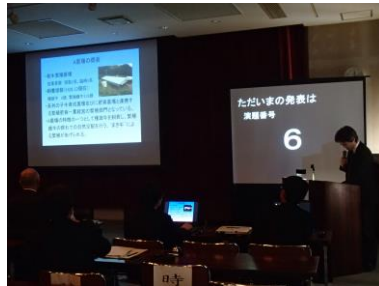
★平成28年度 島根県畜産関係機関業績発表会が開催されました

1月19日、島根県畜産関係業績発表会が開催されました。

この発表会は、畜産に関する試験・研究等の業績について発表討議を行い、知識および技術の情報交換および普及を図ることを目的として、毎年開催されています。家畜保健衛生所（松江、出雲、川本、益田）、家畜病性鑑定室、畜産技術センター、農業技術センターおよび中山間地域研究センターから15題の発表があり、当所からは次の2題を発表しました。

○まき牛交配を主体とした和牛繁殖農場への家畜衛生部の対応とその効果検証（大元）

○酪農場で集団発生したC群ロタウイルスが関与した下痢症（土江）



★受精卵移植研修会を開催しました

今年度実施された養成講習会で新たに受精卵移植（ET）師免許を取得したET師を対象に、受精卵移植研修会を開催しました。12月と2月に和牛飼養農場と乳用牛飼養農場で計2回実施し、それぞれ3名・2名のET師が参加し、技術の向上にむけて奮闘しました。実施後、研修会の感想や技術的な疑問等の意見交換も行いました。今後ひきつづき取り組み技術を磨いて、それぞれの地域で牛の改良・増殖につなげてもらいたいと思います。



ひき続きよろしくお願いたします！

